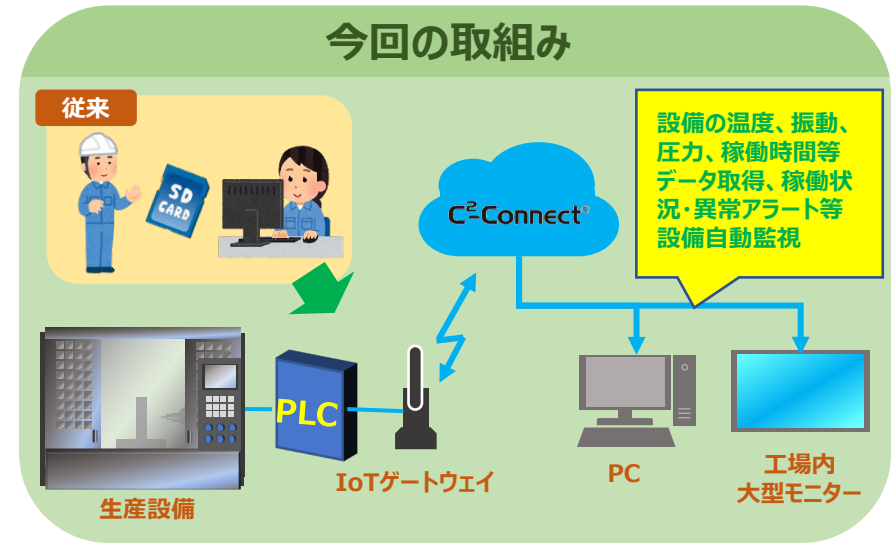


ハイシテクノバルク株式会社「生産データをリアルタイムで自動収集する事による作業効率化」

従来、各生産設備に蓄積される生産データは、日次、もしくは月次の頻度で人の手によりデータ収集をしており、**手作業の手間が掛かる他、変化点に対しリアルタイムな対応がとれない**事があるという課題があった。今回事業で、**自社で開発し、今後自社製品にも搭載を予定しているセキュアなIoTプラットフォーム（C2-Connect）**を利用し、生産設備から品質情報や稼働率を自動で収集することで、作業の効率化やリアルタイムなデータの可視化と変化点に対するスピード対応を可能とする。特に、生産中の温度、圧力、時間など細かな状態変化が製品品質に影響するため、**状態変化をリアルタイムに捉えて、迅速な対応をとることが品質の安定化**に繋がる。また、設備稼働状況のモニタリングにより、**作業効率改善、設備の予知保全**にも繋がる気づきが期待できる。



成果

■ 今回の補助金事業の成果は以下の通り

① 製造データの自動収集による作業時間削減

⇒ 従来の人手による設備からの記憶媒体回収とPCへのデータ移行作業の削減

- ・ 製造データ自動収集 対象全12台 **年間103時間削減**
- ・ 設備稼働状況の自動収集 対象全16台 **年間18時間削減**
- トータル年間121時間削減**

② データの可視化による対応力強化

⇒ データはクラウドにアップされるため、どのPCからもWebブラウザからアクセスして利用可能

- ・ 収集データの変化に対し、**早期異常発見や製造条件補正など品質の安定化**
- ・ 設備の稼働状況をリアルタイムで確認することができ、**生産指示、変更が迅速**に行える体制が整った

今後の課題・展望

【今後の展開①】

製造工程の自動化、省力化（無人化）が進めば、製造データの自動収集や可視化は必須となる

また、**品質保証の観点からも製造データのエビデンスを確実に残す事も重要なポイント**であり、今後対象設備の横展開を進めていく

【今後の展開②】

今回の補助事業で使用した自社開発のセキュアなIoTプラットフォーム（C2-Connect）は、自社内で運用実績を蓄積するとともに、社外への試験導入も開始しており、**将来的には自社製品への搭載を想定**している
 自社製品（モノポンプ）は、食品も含む各種製造業や土木・環境分野等幅広い分野に採用されており、特に**稼働状況や予知保全等に本システムを利用することは、顧客課題解決や自社商品の付加価値向上**にも繋がること
 が期待できる